



「メリークリスマス」

パフテスト心身障害児(者)を守る会  
**愛の手を**

第185号

発行責任者  
 社会福祉法人 パフテスト心身障害児(者)を守る会  
 重症心身障害児施設 久山療育園重症児者医療療育センター  
 理事長 山田雄次  
 編集責任者 小脇勇  
 福岡県糟屋郡久山町大字 久原 1869  
 ☎代 (092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

『コスモスの季節に久山療育園を思う』

金沢キリスト教会牧師 田口 明典

久山療育園は私の人生に決定的な影響を与え、今も与え続けている。エンジニアとして働いていた1971年の12月、小さな開拓伝道所(現相模中央教会)でクリスマスチャン生活を始めた時、久山療育園はその開設準備中であった。現在、理事長の山田雄次氏は福岡城西教会の牧師であった。また、久山療育園を支えるコロナー友の会の事務局長として活動しておられた。

やがて、わたしは1976年に主の導きをいただき、西南学院大学神学部編入学をした。丁度、久山療育園が開園した年であった。千限の神学寮に入り、最初に尋ねたのは福岡城西教会の山田牧師夫妻であった。相模伝道所では小さなコロナー友の会をスタートし、わずかな献金をしていた。その献金に対し、毎回、領収書とともに美しい字で感謝の言葉が添えられていた。それは、山田牧師のお連れ合い山田正子さんからのお便りであった。私は、毎回、このお便りに感動に近い喜びを感じていた。この最初の出会いから今日まで、私と私の家族は山田牧師夫人を介して久山療育園と出会い、数えきれないほどの恵みと導きを頂いてきた。

やがて私は西南を卒業し、九州

若松に赴任した。不思議な導きで山田牧師ご一家を迎えて高須開拓伝道を始めると、4人の子供たちが小倉の市役所の前の街頭募金に参加するようになった。街頭募金と久山訪問、そしてそこに関わる人々との出会いを通して、子供たちも、私も大切なことをたくさん学ばせていただいたし、育てていただいた。開園祭のステージで腹話術師のケンちゃんとお話したことも、ミット・レーベンのTシャツや壁新聞を夜明かしで印刷したことも懐かしく思い出す。

私は6人の子供に恵まれた。この子供たちが成長していく過程で、久山は幼子たちに命の大切さをしっかりと植えつけてくれた。どっちの募金が多いか競っていた子供たちも今は父となり、また母となつている。自ら障害を負っている子もいる。親バカで言わせてもらえば、問題の多い子供たちではあるが、本当に優しい子供たちである。この優しさも久山からの贈り物である。

コスモスの季節に山田正子さんを偲ぶ。久山を愛し、小さなものに最後まで任せ、心を注ぎだして祈りつつ天に召された。彼女もまた久山から力を得ていたのだと思う。

主 張

## 「四十年の導きと新たな出発を」

理事長 山田 雄 次

## ■四十年の導きへの感謝■

本日は皆様と共に創立四十周年記念の開園祭を開催出来たことを心より感謝致します。私は職員と共に創立四十周年の節目の年を特別な感慨をもって迎えています。

重症児施設の建設を目ざす取り組みとしてバプテスト心身障害児者を守る会が一九六八年に誕生し少し遅れてその施設建設を助け、更に施設運営を支援する目的で支援組織バプテストコロニー友の会が誕生しました。そして両者が車の両輪のように連携し、活動を積み重ねてゆく中で施設建設に向けた気運が高まり、開設に向けた取り組みとして土地さがしが行われました。しかしすぐには願いが叶わず大きな関門に直面することになりました。そうした時、久山町在住の草場博志氏の仲介をとおして久山町に申し入れを行ったところ当時の小早川新久山町長が受け入れの意向を示し、町議会の承認をとりつけて下さり、待望の社会福祉法人設立のための発起人総会の開催が決まりました。一九七五年五月、久山町の本会議場で九十一名の発起人が名を連ねる中、社会福祉法人の設立とその第一の事業として重

たが後、一九八〇年藤井舜輔氏、一九八五年城崎仁郎氏、そして一九九六年現在の宮崎信義園長の就任があり、「重症児者医療療育センター」として今日迄の導きを受けました。

重症児施設久山療育園の建設の決議が行われました。受け入れを決断して下さった久山町と土地を貸与して下さった久原財産区の皆様に心からの感謝を申しあげたいと思います。申請後の法人の認可には相当の時間を要すると考え、その間に必要な準備を進めることを考えていた私達でしたが予想に反し一年で認可が下り準備に追われることとなったのはうれしい誤算でした。

初代理事長の川野直人先生はじめ九名の理事の方々のご苦勞は大変なものであったと推測致します。当時現役を引退され高齢となっておられた九大医学部の名誉教授で著名な小児科医であった遠城寺宗徳氏を初代園長とし、日本バプテスト看護学校から小山和子氏を総看護婦長として迎え一九七六年九月に病院開設許可と児童福祉施設設置許可を受け五名の重症児の受け入れから事業の開始を行いました。

開設二年後の一九七八年多田俊作氏を二代目の園長として迎え、翌年鎌田洋二氏を養育部長に迎え体制が整い本格的な療育事業の取り組みがはじまりました。途中短期で就任を頂いた園長もいらっしやいま

いたと考えています。福祉をとりまく環境が厳しくなってゆく今後、流れに従って出来るだけの働きを行ってゆけばよいのかと言うと決してそうではなく障害の重度化や親の高齢化などが重なり在宅重症児者家庭からの支援のニーズは高まる一方でそれにどう対応してゆくのかということが行政と重症児者施設に問われ、期待されているということとす。厳しい時代の中で重症児のいのちと暮らしを守り、重症児とその家族に對して生きる希望と力の依りどころとなるということを中心に刻みつけなければならぬと思います。

理想として求められている重症児者福祉は、脱施設・地域移行の流れの中、整えられた福祉制度のもとで立てられた重症児者施設及びその他の社会資源が提供する諸サービス即ち契約入所、短期入所、通所、訪問、相談支援その他のサービスを利用者が自由に選択し、そのいのちと人としての豊かな生活の質(QOL)を求めて生きることが出来る社会の実現ということが言えると思います。その故に社会資源として立てられた重症児者施設は重症児とその家族が求める多様なニーズに答えられるよう使命感をもち常にその働きのための機能の強化を成すことが求められています。

その意味で久山療育園が三十四周年記念事業として、創立の理

念と将来の展望の実現を期して行った全面改築工事と在宅支援の強化として将来のニーズを見据え、四十周年記念事業として「在宅支援センター」の開設を行ったことの意義は大きいと思っております。

二つの事業は単なる記念事業ではなくポスト四十周年における「重症児者医療療育センター」の布石としての意味をもっているからです。

私たちは創立の聖句としてコリント人への第二の手紙四章一八節の「私たちは見えるものではなく見えないものに目を注ぐ」ということばを頂いています。

私は今の時、その「見えないものに目を注ぐ」ということばを久山療育園の設立の目的のことばそのものとして考えています。「重症児者が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、地域の中心に位置づけられて生きる福祉社会の実現」に目を注いで生きるということとす。

未だ実現には至らず目で見ることが出来ませんが、神のみことばにおいて実現すべきこととして定められている「重症児者と共に生きる福祉社会(きょうどうたい)」の実現を望み、ひたすら祈り、課題にチャレンジしてゆく私たちでありたいと願うものです。(二〇一六年創立四十周年記念開園祭辞より)

## ■四十周年から新たな出発を■

私たちはこの四十周年の節目の年にこれ迄の歩みを省み、創立の理念を再確認し、これ迄積み上げて来た働きを更に継承・発展させてゆくため新しい歩みを踏み出してゆかなければならな

制度・情勢

「第4回全国支援者会議から」

センター長 宮崎 信義

2016年9月23日に「40年の歴史を覚えつつ新たな出発を」を主題として第4回全国支援者会議が開催されました。これまで3回の支援者会議については、第1回が2008年9月22日に「創立理念の確認と新しい課題」と題して、第2回は2009年10月20日「創立理念の検証と再確認」、第3回は2013年9月24日「創立理念に基づく「在宅支援センター」の働き」でした。キーワードは「創立理念」、すなわち聖書を土台とした重症心身障害児者医療福祉に従っているかを検証し方向性を確認することでした。重症心身障害児(者)の命の尊厳と豊かな生活を支えながら共に生きる者でありたいとの願いと決意を確かにする集いでもあります。以下に第4回全国支援者会議の報告を述べます。また今年度から社会福祉法一部改正が実施され、理事会や評議員会の規定と役割が変わり、全国支援者会議は「運営会議」として、提言と支援を頂きたいと思えます。

て旧園舎の全面改築工事の着工と完成(公的補助が受けられず全額自己資金で)。③40周年記念事業において、在宅支援の強化の拠点としての「在宅支援センター」を開設(隣接農地を久山町から購入し、全面改築工事と同様の補助が無く、全額自己資金で)。④現在は短期入所6床を含め、94床(重症者ホームひさやまの入居者10床を加えると104床)に入所(入居)規模を拡大。⑤1990年の通園モデル事業(全国重症児者5施設)に参画し、以後一貫して在宅支援の課題に取り組み、地域に開かれた重症児者施設(重症児者医療療育センター)としての歩みを続け、創立40周年を迎える。

「(1)前半40年の歩み」①久山療育園は50床の小さな重症児者の入所施設として1976年に誕生。②30周年の記念事業において「将来展望の実現の場」とし

「(2)後半40年の歩み」創立理念の展開に向かって80年のスパンでの前半の歩みに対して後半は40年の取り組みにより積み上げられた重症児者の医療療育の実績をベースに、更にこれ迄の事業をその広がりとして働き内実において発展させ、創立理念の展開を期し、使命感をもって課題と取り組む歩みを推めてゆくべきだと考えます。創立の理念「われわれは久山療育園を「重症心身障害児に愛の手を」という精神で設立した。われわれは重症児者が社会の片隅で収容されて生きるのではなく、む

しろ地域の中に位置づけられることを願う。従って久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(共同体)づくりの拠点である。しかし、私たちが進めようとしている重症児者福祉をとりまく状況は厳しく、クリアしてゆくべき課題は多くあります。その多くある課題の中から以下の3点に絞って、ポスト40年の課題の取り組みと展望について発題したいと思います。

課題① 重症児者医療福祉が脱施設・地域移行に変わろうとしている流れの中で、重症児者の地域福祉の基幹的役割を果たす重症児者施設に今後求められて来る多様な在宅支援のニーズとそれに応えられる働きの強化について。

課題② 相模原市の障害者施設殺傷事件は、生産能力のない者は社会の一員に値しないと見做す風潮の中から生まれた障害者差別であり看過できない問題です。経済至上・優先の時代背景の中で、将来更に増幅される恐れがあります。そのことに対して重症児者の医療福祉の現場から障害者(重症児者)のいのちの尊厳を発信、証ししてゆくべきキリスト教信仰に立つ重症児者施設の使命について。

課題③ 重症児者のいのちを守る久山療育園運動を実りあるものとするため、久山療育園とその支援組織であるパプテストコロニー友の会、更に利用者(入所・通所)の保護者3者の一体的な連携と協働による「重症児

者と共に生きる福祉社会づくり」の課題の取り組みの推進について(前回の会議に続けて再提起)。

「意見交換・質疑応答」からスタッフの確保と教育、処遇についてお聞かせ下さい。↓人材の確保が必要であり、これには健全な経営が基本となります。教会からも送り出してほしい。

・ 出生前診断の結果、陽性(胎内の障害)と判定された家庭では94%が中絶したと言われています。生命を守る役割の対象には出生前についても言えるのではないですか。↓こちらから出産を促すことは出来ません。親が産もうと決断できる社会を作ることが必要。

・ 米国南部パプテストが人工中絶の禁止をアピールしている。その内容とは少し異なるが、久山療育園やコロニー友の会も生命の尊厳を訴え続けている。

・ 久山療育園が創立されてから5年ほどして、教会員でもある大学の医局員からダウン症の羊水診断について悩んでいると相談された。

発題Ⅱ 「久山療育園重症児者医療療育センターの設立理念と運営・将来計画」

宮崎信義センター長

(1)「設立理念」の再確認と新たな出発

1. 「設立の目的」から「重症心身障害児に愛の手を」から「重症児者と共に」在宅及び入所重症児者のニーズに聴く診療計

画・個別支援計画が起こされ実践に務めます。また、「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」ことから「在宅支援センター」の建設・開設(2015年7月)が実施され、豊かな生活空間(グループホーム「重症者ホームひさやま」とセンターによる医療支援が行われています。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」と示された理念に導かれ、広く地域福祉に働く「在宅支援棟」も機能しています。このように「在宅支援センター」の働きから、福祉共同体の実現、地域医療連携へ。

2. 「運営基本方針」から「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない」という理念から、コロニー友の会・諸教会及び保護者会との協働によって園の方向が示され維持されています。

3. 「療育基本方針」から「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのために、それぞれ最善の職務的協力を進めること」によって、その専門的領域の働きを全うしなければならぬ」という言葉から、「久山療育園の療育」の再確認と医療メインドに基づく生命の尊厳を支え、QOL(生活の質・生命の質・人生の質)を重視しています。かつて「障がい者と教

育園は50床の小さな重症児者の入所施設として1976年に誕生。②30周年の記念事業において「将来展望の実現の場」とし

て旧園舎の全面改築工事の着工と完成(公的補助が受けられず全額自己資金で)。③40周年記念事業において、在宅支援の強化の拠点としての「在宅支援センター」を開設(隣接農地を久山町から購入し、全面改築工事と同様の補助が無く、全額自己資金で)。④現在は短期入所6床を含め、94床(重症者ホームひさやまの入居者10床を加えると104床)に入所(入居)規模を拡大。⑤1990年の通園モデル事業(全国重症児者5施設)に参画し、以後一貫して在宅支援の課題に取り組み、地域に開かれた重症児者施設(重症児者医療療育センター)としての歩みを続け、創立40周年を迎える。

会委員会」で、「バリアフリー」は一般社会でなく、先ず教会に於いてと発題されました。神の国の福音宣教を始めとして、キリストの平和の使者と同時に病者・障がい者・社会的困窮者の隣人としての召命・使命に生き語る存在として久山療育園は召されています。

4. 「在宅支援と地域連携基本方針(案)」から「地域にとつてなくてはならない重症心身障害施設であるために。そのためには先ず「地域福祉や地域連携の調整」を重視する。それには、①通所事業・短期入所事業・訪問事業・相談事業の実践・調整機能。②自立支援協議会・福岡県地域連携会議との交点。③地域連携機能として、施設・病院と社会資源(医療・福祉・学校)の連携等、を着実に進めることを計画に挙げている。そのビジョンが「在宅支援棟」の機能と役割として実ることが必要です。2階の「第二療育室」が連絡通路で本体の通所事業詰所や外来と繋がり、1階の1フロアで委託相談支援事業所「ゆい」や一般相談支援事業「訪問事業等の事務所」、「糟屋中南部自立支援協議会」等が同じフロアに位置し、この近さによる有用性を尊重し、将来的には児童発達支援や訪問事業の広がりにも対応できるように人材も構造も配置されています。

(2) 久山療育園重症児者医療療育センターの運営  
①「児童福祉法」と「障害者総合支援法」↓「児者分離」の制度へ

久山療育園は1976年に創立され、2016年は40周年の節目に当たります。世界の状況も日本社会や価値観も変化し、医療福祉制度においても児童福祉法及び障害者総合支援法を基軸とした重症心身障害医療福祉制度となりました。児童(18歳未満は「児童福祉法」、成人は障害者総合支援法が適用される「児者分離」となり「重症心身障害施設」という名称も制度の上ではなくなりました。改訂された児童福祉法に「重症心身障害児」という名称が残るのみですが、重症心身障害児(者)(以下、重症児者と略)の存在の尊さや生命の尊厳、療育的視点が保たれることを願っています。私どもは、聖書でも特別の意味を示されている「40年」という時を覚え、改めて創立理念に照らして施設の座標を見直し、ここから示される方向を見つめて参りたいと思います。

② 高齢者となった「重症心身障害者」は…また2016年は「障害者総合支援法」(法施行時に3年後の見直しが附記)が2013年に施行され3年を過ぎました。3年後の見直しの主な内容は、①「障害支援区分」の認定・支給決定ですが、療養介護サービス費の推移と障害福祉サービスの動向を注視していくことが必要です。②65歳に達した重症心身障害者では障害福祉サービスから介護保険法の優先を適用する旨が公示されていますが、「生涯を通しての医療福祉サービス」という理想か

らは医療福祉サービスが削減されるリスクがあります。「障害者総合支援法」では、所得の低い人への配慮措置が盛り込まれ「障害福祉サービス」を利用する障害者の9割が無料でサービスを受けられます。しかし、法には65歳以上の障害者について、障害福祉よりも介護保険のサービスが優先的に適用されると明記されています。「介護保険」はサービス利用料の1割が原則的に自己負担になるとされていますので、福祉と比べて相当高い自己負担となります。現在は厚労省は一律の適用を求めおらず、各自治体に障害者の要望にも配慮するように通知しています。現に、当センターでも「在宅支援センター」が開設され、65歳になられた方のグループホーム入居や通所事業の利用について、介護保険が優先されると生活や医療福祉の費用が障害年金を超えてしまう懸念があり、住民票を置いている市町村と協議しました。障害者福祉サービスが認められることとなりましたが、市町村による温度差がこれからも懸念されます。

③「障害者総合支援法」施行後3年後の見直し…厚生労働省の行政説明では、「障害者の地域移行を進める上でグループホームが果たしてきた役割や障害者の状態・ニーズ・障害特性等を踏まえつつ詳細について検討する必要があります」と表明されています。そして「障害者が介護保険サービスを利用する場合も、それまで支援してきた障害福祉サービス事業所が引き続き支援できるよ

事業所が引き続き支援できるよう、その事業所が介護保険事業所になりやすくする等の見直しを実施するなど、障害福祉制度と介護保険制度との連携を推進」と説明されています。当センターが2015年7月に開設した「重症者ホームひさやま」の入居者にも65歳になられた方がおられます。幸い担当する自治体の福祉部門に出向き説明を求めると引き続き「障害福祉サービス」の利用で良いとのことでした。しかし、地域による温度差は懸念されます。

(3) 途上にある「在宅支援プロジェクト」の推進  
①「在宅支援三本柱」の推進、②新たな3段階の傾斜配置へ「在宅支援センター」「重症者ホームひさやま」開設。(1)医療重点型(めぐみ棟)…42床(うち短期3床)医療度の高い利用者(超重症児者等)。SCR (Severe Case Room)の活用。NICU後方支援。医療的ケアの高い方の短期入所病床。(2)療育重点型(ひかり棟)…52床(うち短期3床)。大島分類1〜4及び5・6・10・11。周辺児者)。「重症者ホームひさやま」(定員10人)；共同生活援助事業、夜間生活の場。  
③新生児集中治療室(NICU)：在宅への移行支援の受皿として中長期滞在型一時入所病床2〜3床増床の可能性。NICU・GCU・小児病棟から家庭までの中間施設(又は中長期滞在型の一時入所病床)。児童発達支援及び障害児医療の取組…常勤小児科医の確保。④重症心身障害児者の家族と共なるコミュニティ形成の可能性。  
・「在宅支援センター」は、これからの50年にも繋がり、全国で2万人以上の在宅重症児者にとつても大切な役割を担う。一般医療機関では人件費率が45%を超える赤信号といわれているが、聖路加病院の人件費率は64%と書いておられた。久山療育園の場合はどうか。また広報活動や後援会活動などを盛んに行つてはどうか。↓当園は「在宅支援センター」も含めて73.4%です。医療法人と異なり重症心身障害施設での人件費率は70%を超える経営上の危機を示すと言われています。末光先生のご意見も伺えれば幸いです。久山療育園では常勤・非常勤の職員は200人を超えています。人的には厚く配置していますが、各職種とも精一杯に働いています。運動は役員の方々も担って下されば幸いです。  
・約10年前に2回に渡つて西日本新聞に全面意見広告「生きるに価しない生命と言わせない世の中に」を130名以上の賛同者で発表しました。それが今年7月26日に津久井やまゆり園で惨劇が起きた。これからもそのような思想と戦つていかねばならない。  
・久山療育園の働きには保護者の力も大きい。私たちはこれからの保護者の方々の声をしっかりと聴いていきたい。

・自分はクリスチャンではありませんが、センターの理念が職員にも浸透していくことを願っています。また職員確保にも育成にも日常的に努めています。

**発題Ⅲ 「隣人性を生きる」友の会運動**

**伊原幹治バプテスト「コロニー」友の会会長**

7月下旬に、神奈川県相模原市で26歳の元施設職員が、かつて働いていた知的障害者施設に侵入して、入所者19人を殺害し、他にも多くの重傷者を出した。自分に危害を加えようと殺人犯が襲って来ているのに、それから逃れる術を持たない人達が大勢犠牲になった。力を行使できる立場にある者が、力のない者に対して、一方的に起こした事件であった。

私は、このニュースを聞いて非常にショックを受け、恐ろしく思ったし、今もその想いから抜けきれない。過去に例がないほどの大量殺人で、まず、この被害者の多さにショックを覚えた。本人も何人を殺したのか覚えていないという。『覚えていない』というこの感覚は、人間を相手にした感覚から生じるものではない。次に犯人がこの施設で働いていた人間で、観念的ではなく、障害者とはどういう人なのか、具体的に熟知していた人物であったこと。その上で、『障害者』は『生きてくる意味がない存在』であるというところが、理由になっていた点である。

警察の車で護送される犯人の姿がTVの映像で流れた。多くの場合は顔をそむけ、あるいはうなだれる格好をするものであるが、彼は自分が「英雄」であるかのように顔をあげ、自分の行為をアピールしているように見えた。それは見る者には挑戦的であり、不愉快であった。自分の行為が社会にとって「良い」と言わなければならなかった。

一人の「大バカ者」が行なったというのではなく、私はある意味、彼は大変頭がいいと思った。それは、最近のテロやヘイトスピーチなど、弱い立場にいる人たちの人権を真正面から否定する社会の風潮を敏感に感じ取りそれを率先して行なったという印象を受けたからである。

これまでであれば、これら社会的弱者をからかうようなこととはあっても、これを正面から否定する動きは抑えられていた。それが、最近正面からその存在を否定する動きが目立っている。そこには、「在特会」のように、もっともらしい「公平」原則に基づいた説明がなされているが、偏見に満ちたものである。その論理で言えば、今回被害を被った人たちは、「税金の無駄遣い」であるので、生きる意味がないという論理である。社会の風潮が変化して来ていると感じる。識者のなかには、このような風潮の裏に、ナチスの優生思想の再現を見られるという。高齢者の医療費や社会福祉関係の予算が大きくなる中で、

これから避けては通ることが出来ない議論である。言葉には現れなくても、これらの事件を背景にして、厚労官僚たちの意識の中に、こう言う部分が見え隠れする時代に入ったのではないだろうか。

それに対して、私たちは、どういう論理と言葉で対峙して行くのか、正念場が来ている。

**「意見交換・質疑応答」**

伊原兄の発題から「想像力」の大切さを思った。末光先生の講演からも多くの示唆が与えられた。私は福岡市の児童相談所に約20年間勤務しましたが、重症心身障害児(者)の実状が詳細にはわからなかった。しかし、40年前に久山療育園が創立されてことは喜ばしく思いました。療育の質の向上に協力出来れば幸いです。

教会からの発題がなかったのが残念だった。Inclusive Mitebenは、内面を含めた共生と理解できます。教会で語られる福音の分かち合いが必要で、教会からも発信を。神学者や有識者を招くのではなく、久山療育園と教会の双方の運動が必要だと思えます。

・教会もコロニー友の会運動も広がりにくい社会状況だと思えます。ワークキャンプへの参加教会数が減少している。支える私たちが旧態然としているとも思えます。

・ボランティアが拓く可能性に期待します。

**助言・久山療育園重症児者医**

**療育センターの役割**

**旭川荘理事長 末光 茂先生**

グループホーム「重症者ホームひさやま」の発足は素晴らしいことだと思います。しかしそのことに気づいていない方も多々。Inclusive Miteben(統一的共生)の上からも多くの示唆を頂きました。

・創立40周年記念開園祭に続く「全国支援者会議」にも参加させて頂きたいと願いました。

旭川荘でも是非参考にしたいと思っております。

・50年前に旭川児童院が出来た時に、江草先生に誘われてヨーロッパの福祉事情を見学しました。当時招いた神父さんが「江草さん、その建物が崩れ落ちる音に耳を傾けなさい」と言われた意味がようやくわかってきました。久山療育園を拝見しても祈りを共にすることが大切だと思つた。

・これからの重症心身障害施設に期待することとして、①理念を大切にすること、②人材(財)育成・グループホーム地域コーディネートター、終末期ケアなど、③地域のニーズに応えていくこと、④将来計画を持つこと、等です。

**提言1 「重い障がいのある人たちのランドデザインを描く」**

**水野英尚地域生活ケアセンター 「小さなたね」施設長**

(1) 「地域生活ケアセンター」小さなたねの取組み

○2011年4月に開所。医療型日中一時支援事業(重症心

身障害児・者に特化)。医療型特定短期入所・自宅でのケアをそのまま活用

1. 重い障がいのある人とその家族の地域生活を支えたい。日中活動・在宅支援・相談支援。課題①入院で利用が不安定。課題②医療・介護の人員不足。

2. 自宅ケアをそのまま、年齢で区分けをしない。幼児から成人まで。課題①個別ケアの複雑さ。課題②それぞれの年齢に応じた活動。

3. 栄養注入を豊かな食事へ。「たねカフェ」での取組み。課題①時間と手間が必要。課題②他医療機関との情報共有。

(2) 「重い障がいのある人たちのランドデザインを描く」

1. 当事者抜きで考えない。「の」から「と」へ。非言語コミュニケーションの大切さ。課題①独りよがりになりやすい。課題②保護者と多職種(他施設)との情報共有。

2. 住み慣れた「地域」で豊かに暮らす。「住む・働く・学ぶ」ことのできる場を創る。課題①中心は誰なのか。課題②支援できる医療機関・福祉サービス事業所。

3. 「いのちの肯定」の姿を地域の中で。重い障がいのある人の生きる姿を、生活の中で見えるように。課題①共有できる場所が少ない。課題②「安心」・「安全」で覆われる。

「意見交換・質疑応答」

・「小さいたね」以外にも近隣に同じような施設はありますか。↓福岡市には他にもう1

施設あります。運営上は「医療的ケア」の可否が重要です。協力してくれる医師や医療機関が必要で。

・運営コストや利用者像についてお尋ねします。↓補助金などはなく、開設時は全て銀行からの借金でしたが、赤字ではなく返済も出ています。利用者は0〜3歳児の利用が増加しています。

**提言2. 「長男の久山療育園での生活と、これからへの親の願い」**

**又野洋子さん(グループホーム入居保護者)**

1. 長男の出生と障害: 「障がい?」って... 長男は重症児(者)で難聴もあります。重度の障害を持つ親としての「覚悟」と家族との生活がありました。

2. 卒業後の進路と選択

・「野の花会」との出会いと活動。福岡東病院に入院する親の会に参加しました。

・選択肢のない将来... 久山療育園に通園〜入園〜2015年からグループホームへ、これまで21年間お世話になっていきます。

3. 在宅から久山療育園入所へ: 入所のきっかけと親の思い... 自分の股関節の病気や年を取ることで過程療育の困難化が進み、空床のお知らせと利用のお勧めがありました。入所したがる決心しました。入所からの貴志の生活とQOLの変わりよう。

4. 「重症者ホームひさやま」への入居と生活... 新しい生活に慣れるまで... 保育士の方から「タオルたたみ」を勧めて下さり、人との交わりや達成感など、ボランティア室に通うことを楽しみにしています。「ホーム」での毎日... 個室はゆつたりとして広く、寂しがるかとも思いましたが、すぐに慣れたようです。

**(2) これからの「久山療育園」に望むこと**

1. 入居者の保護者としての思い... 「めぐみ」「ひかり」と「重症者ホームひさやま」と全て利用しました。親子ともにすすむ高齢化とこれからの不安... グループホームでは家族会が発足し、3ヶ月ごとに会合を持っています。また久山療育園保護者会にも所属しています。

2. 在宅支援について... 住み慣れた地域での生活とは。望むもの。必要なもの。グループホーム・小規模施設・デイサービス(例 富山式等)等々。障害のはざまの子ども達。

3. 「地域生活支援拠点」としての役割... 重症児者の地域生活の拠点として... 多機能型施設として、重症児(者)コーディネーター等。在宅支援棟に「訪問看護ステーション」「ヘルパーステーション」を。

4. これから親としてできることは... ひとりの親としてできることの限界... 現在は外出にも同伴者が必要です。繋がることの意義... 社会に向けて発

信じていきたい。(例津久井やまゆり園事件など)

**提言3. 「原点に返る」キリスト者奉仕会の実践から**

叶 義文 大牟田恵愛園園長

(1) はじめに 大牟田恵愛園は創立33年目です。

(2) わたしたちが大切にしていきたいこと

1. 平等性、対等性 人権の視点... 人としての対等性、平等性... 一方で福祉のサービス業、障がい者は「お客様」等がある。優生思想と自分の問題として(自分の中の優生思想)↓相模原事件から(役に立たないもの)。

多様性(違い)を認める社会↓見えない人、聞こえない人、車いすの人、知的に障害がある、いろんな人がいる社会。

2. 知らないことによる差別... 施設が社会の真ん中にあることの意味(インクルージョン)。安永事件。

3. 当事者性... 当事者から学ぶ視点が基本。当事者の気付き... 悲しみ、くやしき、無念さ、怒り...

4. 支援者と利用者という関係から... 見えてこない... 支援する側と支援してもらおう側。対等な人としての出会い(共生の営み)の中で初めて気付くこと。

5. キリスト教社会福祉のアイデンティティ(私たちがこだわっていること)... ①聖書、イエスキリスト、②神から造られたものであること、③差別、抑圧された人たちの出会い、生の声を聞き共生、そこからの出発。

**(3) 障害者権利条約(2014年1月批准)から 障害者差別解消法・改正障害者雇用促進法**

①他の者との平等、②医学モデルから社会モデルへ... 障害は個人の能力・機能によって起こるものとする「医学モデル」の考え方。一方、障害は社会の障壁によって作り出されるものとする「社会モデルの考え方」。

③合理的配慮... 障害のある人とない人の実質的な平等のための変更・調整(スロープ、手話通訳...)

過度の負担にならないことについて、この合理的配慮をしないのは差別であるとする考え方

**(4) 今後に向けて**

1. 「事業をしていくこと」と「社会への発信」... 差別問題、人権問題↓サービス業へ(見えにくくなってきた状況(本質))。社会の歪み・矛盾について発信していくこと。

2. 理念の共有及び継承... スキル研修だけでなく、理念研修を。職員は約160人。「わたしがどう生きていくのか?」という問いでもある。

3. キリスト教社会福祉(10年後、39年後、50年度、100年後)... こだわり続けること

(5) おわりに

・「障害者差別解消法」・津久井やまゆり園事件(優生思想)に抗して。障がい者の存在が社会を豊かにしている。

**質疑と全体討議**

・又野さんへ... 親の高齢化について、自分たちはどうしていくかお尋ねしたい。↓一番の

不安は息子の世話(衣類など)です。後見人は金銭管理のみと聴いています。また妹には負担をかけたくありません。出来ればタクシード通えるなど近くに住みたい。また日常的にはヘルパーの派遣が出来るれば良いと思います。

・「40年」は、保護者・職員・ボランティアの方々の声を受け止める時です。また将来計画についても以下のように提言したい。①2020年までの将来計画策定。②人材育成。③「ひびきあう生命」に続く出版事業。④行政との協議(在宅支援の拠点)。

「教会はどうしている?」「これから教会はどうするのか?」と思います。コロナ友の会回避の増額(月額200円を300円に)など、協会にチャレンジし、「ざわめきを起す」ことが大切だと思えます。

**おわりに**

以上、他岐に渡って発題・提言と協議がなされました。時間はとも足りない気が致しましたが、今の時と私たちの立ち位置を確認し、後継者育成の使命をも背負って今後につなげて行きたいと思えます。



ご協力ありがとうございました

(2016年7月1日~9月30日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

日本基督教団福岡南教会婦人会、いのちの冠福岡教会、安部聖子、豊前キリスト教会、高橋香代子、岡本修一、後藤敏雄、木元久代、(学)福岡女学院、牟田逸雄、(学)西南学院西南学院高等学校母の会、室蘭バプテストキリスト教会、山口正夫、西南学院高等学校生徒会、平川博・成、手作品売上げ、船津丸泰

(以上886,399円)

指定献金

久山療育園来久の会、福岡丸本(株)、栗田昌枝、香蘭女子短期大学、富野バプテスト教会、安成由岐子、石垣幸枝、久保山信・敬子、嘉久明子、日本重症心身障害福祉協会、西日本施設協議会、テレコールN E O(株)、スーパード信、宮崎信義、荻本光雄、社会福祉法人旭川荘、小副川時子、北古賀由美、平野幸枝、横溝玲子、吉見ナツ子、梁瀬歌子、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所、

鬼塚公認会計士税理士事務所、

草場正子、鈴木伸、伴敦子、中田赫子、奈良崎洋子、牧角雅子、高橋香代子、白濱孝子、野中尚子、久山町つくしんぼうの会清水啓子、福岡県肢連林田・長野、山田眞士、飯塚バプテスト教会、社会福祉法人キリスト者奉仕会、安部聖子、松本修一、水よう日ボラソニア、梅崎正広、大高玄子、森永清治、大原信幸、大原定行、池田文章、安部田鈴香、花原章二、藤原イツ子、福岡療育支援センターいちばん星堤利栄、因道子・勲、鮫島隆之・経男、小山和子、河島美穂、牟田米子、折尾バプテスト教会、野田由里子、福井佐藤、森本、村津俊博、松尾貴光、松尾勇一、矢山和平、田中三千男・由美、志満秀武・てい子、東倉忠勝、平京子、新藤賢恵・佐知子、羽田有子、五斗美代子、東久原区長福田賢輔、甲斐悦江、福岡県立福岡特別支援学校、中尾清寿、福本順子、上久原区長柴尾賢

一、木下康一、榎谷悦子、岡本好枝、澤田義之、矢津真澄、田上洋子、南谷理恵、古賀譲二、福田靖、山口吉昭、松尾国利、佐伯幸男・年子、畠中千代子、深見達弥、井上ひろみ、渡辺久子、名雪賢一、塚原千鶴子、荒巻久子、田口和子、川野美恵子、阿部初美、石丸桂子、古賀成、木下鮮魚店木下孝之、戸島相子、(株)マルセン、副島徳恵、山崎工、中久原区長森實二夫、和白バプテスト教会、下久原区長城戸敏幸、大牟田フレンドシップキリスト教会、叶義文、小谷美保子、渡辺浩行

(以上4,389,000円)

【重症者ホーム】

一般献金

渡辺浩行、イイダセツコ、後藤敏雄、山田雄次、井手伸昌、瓜生美知子、甲斐丈士、自動販売機売上献金、久山療育園献金箱

(以上144,153円)

【施設会計】

一般献金

(株)ロジテム九州

(以上60,000円)

献品

安徳光代(ワイシャツ)、ロジテム九州(すいか)、平京子(石鹸)、合屋勉(はがき)、高瀬寛(シャツ他)、福岡友の会明日の友グループ(清拭布)、西川美智子(バック)、瑞穂キリスト教会(タオル)、日本国際ギデオソ協会福岡支部(聖書)、大原信幸(官製はがき)、嘉久明子(梨)、平川成(毛糸たわし他)、高倉博子(切手他)、福岡女学院高等学校(食器類他)、福岡県理容生活衛生同業組合粕屋支部(タオル)、BARBARA MIZUNO水野孝生(タオル他)、梅木光男(トースター)、鎌倉ツヤ子(お米他)、守田孝子(しそジュース)、福岡医療関連協業組合(洗剤)、荻本光雄(さつまいも)

(以上3,216円)

【バプテストコロニー友の会】

8月分街頭募金 (以上31,368円)

【バプテストコロニー友の会扱い献金】

常盤台バプテスト教会、日本バプテスト浦和キリスト教会、川内智子、日本バプテスト高須キリスト教会、吉村秀実、開園祭Tシャツ

(以上174,615円)

職員の異動

(2016/8/1~2016/10/31)

【採用】

- 井上 幸子(食事介助員) 8/9付
野田 正紀(小児科部長) 9/5付
森田 祐子(療育員) 9/6付
隈本 彩華(療育員) 9/26付
橋本 治光(内科部長) 10/1付
【退職】
武村 重紀(介護福祉士) 8/31付
古川 牧緒(内科医長) 9/30付
小森 孝子(事務員) 9/30付
寺田 直人(介護福祉士) 10/31付

献金申込送金先

社会福祉法人
バプテスト心身障害児(者)を守る会
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
久山療育園重症児者医療療育センター内
☎(092) 976-2281(代)
《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】
《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888
個人、会社共に免税の対象になります。
メール: hisayama@hisayama-smid.jp

「創立40周年記念開園祭を感謝して」 センター長 宮崎信義

久山療育園重症児者医療療育センターは、創立40周年を迎えました。創立40周年を迎えるに当たって、久山療育園が「重症児者と共に」を合言葉として、創立の理念に導かれ、保護者の皆様と事業を共に担うコロニー友の会・ボランティアの皆様と共に歩んで参りました。これまでの40年の導きと歴史を思い返しつつ、新たな出発を見守って頂ければ幸いです。

第一部 40周年記念開園祭

創立聖句(コリントの信徒への手紙Ⅱ4章16〜18節)から、「導かれて40年」と題して山田雄次理事長から式辞が述べられ、旭川荘理事長・日本重症心身障害福祉協会参与の末光 茂様、村津俊博保護者会会長様から祝辞を頂きました。その後感謝を以って、来賓紹介とボランティア表彰・永年勤続者表彰を致しました。

第二部 末光茂先生の記念講演

創立40周年の記念講演は、故江草安彦先生(創立30周年記念講演を頂きました)の後継者であり、重症心身障害施設の指導者である末光 茂先生から、「これからの重症児制度と施設の働きについて」ご教示頂きました。以下に主な内容の要旨をお示し致します。

「Mitleben(共生)からInclusive Mitleben(統合的共生)へ」と久山療育園の合言葉とも共通するキーワードが延べられ、久

山療育園重症児者医療療育センターも重症心身障害児者の地域生活支援に果たしてきたことへの敬意とグループホーム等への期待と、過分とも言える評価を頂きました。特に2015年7月に開設したグループホーム「重症者ホームひさやま」が「在宅」そして位置づけられ、「在宅支援センター」の福祉型入所機能を担うものと評価して下さいました。

重症児分野の最近の動向と課題については、障害者総合支援法施行3年後の見直しについて考察され、その対応として①児者一貫体制の維持、②「経過的療養介護Ⅰ」への適切な対応、③インクルーシブな地域支援のなかでの「重症心身障害施設」としての果たすべき役割は?、④現状維持の姿勢で本当に大丈夫なのか?世の中から見放されないという保障は?と課題を挙げられ、制度については平成27年度報酬改訂が医療・福祉共に減額され続けている厳しい実状を指摘されました。

重症児入所施設の将来像については、必ず守るべきものとして、常時医療ニーズの高い人(超・準超重症児者)7対1看護へ)、Post NICUの受け皿、医療的ケア児と家族への支援、医療的ケアの必要な強度行動障害児者、医療ニーズの軽い人の受け皿と地域移行、周辺障害児者の医療入院等を列挙され、最後

に「今、何が一番求められているのでしょうか」、それは「信」の一字ではと締めくくられました。

第三部 「音楽会」等々40年の歩み振り返り交流をふかめる

今年は特別な記念開園祭として、商品バザー等の催しは致しませんでした。音楽の集いを中心に、「40年の歩みを振り返り交流を深める」目的で開催されました。友情出演(ボランティア)として埜口浩之さん(フアゴット)・立花洋一さん(ピアノ)・小野稔隆さん(コントラバス)及び職員が結成した「楽団ひさやま」による演奏が好評のうちに、聴衆の皆様を魅了しました。

おわりに

「40年」、それは出エジプトの民が約束の地に入るための試練の時です。久山療育園のこれまでの40年は、今あるに十分な時と導きの時だったと思えます。そしてこれからの40年、多くの者が遣わされ「重症児者と共に」成長への道にと用いられることを願います。

私たちは今年、創立40周年を迎えました。久山療育園は創立理念に従い、重症心身障害児(者)とご家族の必要に聴き、各職種のわざと働きを導かれ、そしてこれからの歩もうとしています。

メモ帳

【7月】

- ▽1日 在宅支援棟・グループホーム建築1年点検
- ▽1〜2日 管理者研修会(夢家)▽3日 中久原祇園祭りみこし来園、手話ダンス
- ▽5、6日 福岡特別支援学校授業参観
- ▽8日 平成28年度認定看護師研修会開講式、福岡女学院理事長来園
- ▽10日 東久原子どもみこし来園
- ▽12日 県立須恵高等学校ふれあい看護体験(5名)
- ▽16日 ボランティア講習会
- ▽19日 西南学院中・高等部見学ボランティア(35名)
- ▽20日 福岡特別支援学校終業式
- ▽ロジテム九州献品贈呈と見学
- ▽27日 第一ライオネスクラブ見学(3名)

【9月】

- ▽1日 福岡特別支援学校始業式
- ▽2〜4日 認定看護師研修会、3期生閉講式
- ▽6日 福岡丸本来園
- ▽11日 開園祭前保護者作業日と懇談会
- ▽15日 西日本新聞取材
- ▽20日 舞鶴幼稚園保護者会ボランティア(28名)
- ▽22日 40周年記念開園祭
- ▽23日 全国支援者会議(夢家)
- ▽27日 福岡第一ライオンズクラブ来園(8名)

【8月】

- ▽1日 福岡特別支援学校出校日
- ▽2日 北九州市障害者施設協議会見学(25名)
- ▽3日 ひなた家理
- ▽5日 県障害福祉課来園
- ▽5日 親交会夏季行事
- ▽9日 福岡女学院中・高等部見学・ボランティア(35名)
- ▽21日 日本キリスト者医科連盟全国総会見学
- ▽22日 音楽会(ゆういち&あやめ)、福岡特別支援学校出校日
- ▽22〜24日 コロニー友の会主催ワークショップ
- ▽30日 第3回理事会
- ▽31日 本館10年点検



# 第27回 久山療育園 ワークキャンプ報告

仙台長命ヶ丘キリスト教会 金丸 真

今年も夏の恒例行事、久山療育園ワークキャンプが、「あなたも隣人になってみませんか？」というテーマのもと、8月22日(月)～24日(水)の2泊3日で行われました。27回目となる今回のキャンプには、赤ちゃんから80代までの、のべ120人の方々が参加してくださいました。そのうち高校生以下が54人、小学生だけを数えると30人も参加してくださいました。今回初めてワークキャンプに参加する方々もいて、うれしい出会いが与えられました。このように参加して下さる方々を思うたび、27回も続けることができているこのワークキャンプは、久山療育園の働きを微力ながら支え、重症児者と共に生きる運動を広げる大事な機会になっていると感じます。また今回は特に現在青年に成長した参加者が、子ども頃からこのワークキャンプで久山療育園や職員の方々と出会い、重症児者と出会い、重症児者の保護者と出会ったことが自分の人生にどれだけ大きな影響を与えたかということをかち合ってくれたことに、大変励まされました。毎年参加者が多いキャンプですが、これからも少し輪を広げて、少しでも多くの教会から参加していただけるようにと願っています。

今年のワークキャンプは3日間、幸いにも天候に恵まれ、ワークの時間、草刈り作業もはかどり、園の周りをとてもしやすいことができました。また、利用者の方々とふれあいの時間には、キ

ャンプ参加者がつくったプレスレットなどの飾りをつけて、パラバルーンなどと一緒に楽しむことができました。工夫して準備して下さった職員の方々に感謝いたします。

また、利用者の保護者の方のお話を聞く時間は、毎回貴重な時間で、多くのことを教わります。「重症児者と私たちには同じものがあります。それは心です」と語られる保護者の方の言葉に、参加者も真剣に耳をかたむけていました。また、食事介助の仕方、車いすの操作の仕方、体験学習にて真剣に学びました。このような大切な学びの他にも、職員の方々が加わったの140人を超える規模のおいしいバーベキュー、温泉など、楽しいプログラムも大切にしています。

また、ワークキャンプの食事は、食事準備担当スタッフだけではなく、近隣の教会の皆様との協力、差し入れなどにより、毎回素晴らしいものになっており、参加者の楽しみの一つになっています。今回は特に、10年以上ぶり「カッカレー」が復活したことも嬉しい驚きでした。久しぶりに復活したカッカレーを食べながら、長い間久山療育園を支えてこられた天に召された伊原雅子さん、山田正子さんを偲ぶ時も与えられ、ワークキャンプの歴史を大切に振り返ることができました。



のも、私たちを受け入れてくださった利用者の方々、保護者の方々、また優しく協力してくださいました職員の方々、食事準備などで協力して下さった教会の方々、参加して下さったお一人ひとり、神様に、心から感謝いたします。来年も沢山の方々とお会いできることを楽しみにしています。

## バプテストコロニー友の会からのお知らせ

### 「第19回久山療育園のために チャリティーコンサート2017」

日時：2017年2月15日(土)  
午後2時～4時  
場所：西南大学コミュニティーセンター  
入場料：1000円  
チケットは、福岡・北九州のキリスト教会や久山療育園他で購入することができます。  
当日会場にても販売しています。  
お誘い合わせの上、ご参加ください。

### 年末街頭募金のお知らせ

今年も福岡市天神地区におきまして、下記日程で街頭募金を行います。  
皆様のご参加をお待ちしております。

12月17日(土)	13時～15時
12月18日(日)	13時～15時
12月22日(木)	13時～15時
12月23日(金)	13時～15時
12月24日(土)	13時～15時
12月25日(日)	13時～15時
12月26日(月)	13時～15時

場所：福岡市天神大丸デパート前  
お問い合わせ・連絡先：久山療育園 092-976-2281  
※日程につきましては雨天等により急遽変更する場合があります。ご了承ください。

# めぐみ棟・ひかり棟の活動

## 「秋まつり」

数日前から、廊下や壁にカボチャのお化けやクモなど飾られて、何かが始まるのかと楽しみが膨らみ、前日にはあつという間に秋祭り一色になり気分も一気にお祭り気分になりました。

当日は、みんないつもよりも、ワクワクした顔で朝食を食べていました。秋祭りは、スタンプラリーのようになっていて、様々なコーナーに行ってはハロウィンシールをもらっていくもので、全てのコーナーには、仮装した職員やボランティアの方が出迎えてくれて、ゲームやお話をしてくれました。何名の方は、カラオケ大会にも参加されて、みなさんに自慢の歌声を披露して、大きな拍手をもらって大満足な表情をさけていました。お客さんもたくさん盛りに上がりました。

午後からは、フルートとトロンボーンの演奏で、お腹いっぱい食べた後にゆったりと癒され続いている和太鼓では、迫力のある演技と力強い音に惹き付けられました。どれも楽しく工夫を凝らしたもので、1日では足りないくらいでした。

皆さんのビックリした表情など、コーナーによって日ご

ろ見せない姿もみることができ、新しい発見の多い1日でした。

めぐみ棟  
介護福祉士 桑原リサ



「かかしに負けない仮装ぶり」

## 敬老の日

9月14日に初めての行事となる「敬老の集い」を行いました。

入所利用者様の中で60歳を超えている方のお祝いを行いました。という事で、めぐみ棟ひかり棟各棟でお祝いをしました。対象の方はめぐみ棟2名、ひかり棟4名、計6名でした。まず昼食後に6名の利用者様は交流ホールへ行き園長先生方からの祝辞のお言葉を頂きトロフィーを頂きました。その次はめぐみ棟へ行きお祝いをして頂いたようです。ひかり棟ではその間プレゼント

の作成をしていました。花紙を使用して花を作り、それを箱の中に詰めてフラワーボックスを作りました。また6名の利用者様が入場してくる時には、「○○さんおめでとう」などと書いてあるうちわや板を持って出迎えました。初めに皆さんの生まれた頃、どのような事が起きたか。またその頃に生まれた有名な人は誰がいるか。など年表の説明がありました。参加していたスタッフも興味深々で聞いていました。それが終わると作っていたプレゼントを渡し、最後に事前に作っておいたフォトフレームを使って記念撮影をしました。皆さんの笑顔がとても素敵でした。戦争があっている頃に生まれた方もおられ、今回の行事に参加した事で改めて敬う気持ちを忘れずにと接していかなければいけないと思えました。

ひかり棟

保育士 櫻井あや



「みんな元気で金メダル」



藤田 英彦

これはわたしたちの神のあわれみ深い御心による。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、暗黒と死の陰に住む者を照らし、わたしたちの足を平和の道に導くであらう。

79ルカによる福音書1:78

年の輪が大きくめぐって今年もクリスマスが近づいて来ました。クリスマスは、御子イエス・キリストの誕生を祝う日ですが、聖書にはその日が二月二十五日であることをどこにも見出すことは出来ません。

クリスマスは単に歴史的な可愛いイエス様の誕生日ではありません。初代の教会は、十字架に架けられた三日目に復活されたイエスをキリストと告白する信仰が大切で、肉によるイエスの誕生にはあまり関心がなかったのかも知れません。先日100歳の天寿を全うされた昭和天皇の末弟三笠宮が、生前、オリエンタル歴史学者として、史実性が

なく、明治維新後に天皇制軍国主義のため作られた「祭日」に反対しておられたという新聞報道には感慨深いものがありました。12月25日をクリスマスとして祝った記録は紀元三三六年、ローマの行事を表す「フィロカリスの暦」にあり、この日は、ローマの市民宗教ミソスの「冬至の太陽の祭り」の日で、一年中で最も暗い夜が長く、翌日から明るい太陽の照る日が広がる希望の日の祭りでした。それを、この日こそナザレの貧しき家畜小屋でぼろ布を纏って生まれ、生まれてすぐに難民としてエジプトに逃れ、生涯を「人の子は枕すところの無い」歩みをされながら、貧しい者の友となり、死に至るまで、徹底的に他者を赦し愛され、十字架に架けられて葬られ、陰府に降り、三日目に復活して、天に挙げられたイエスの誕生日に相応しい「義の太陽の日」であるクリスマスとされ、四世紀からローマ全土で祝われるようになったと言われています。教会や家庭、パーティで温かいクリスマスを迎える時、一瞬静まって、御子誕生の意味を考えたいものです。

# The SPIDER ～スパイダー～

当センターに2016年度より導入されている【The SPIDER】をご紹介します。と思います。私たちは1Gという重力のある世界で暮らしていますが、日常の生活で暮らして意識することはほとんどありません。しかし、病気で寝込んだ時など自分の身体が鉛の様に重く感じられることは経験したことがあると思います。当センターのリハビリ利用者のほとんどの方は脳の損傷による異常な筋緊張と筋力の低下、筋のアンバランスという身体状況をもつておられます。そして、日々姿勢を保つために1Gという環境の間で何とか折り合いをつけてようと努力しています。運動に障害のある方は自分の身体を支え、姿勢を安定させることが苦手です。その際、自身の重さを制御できないことが最大の障壁になります。

《重力を軽減し姿勢制御を含む環境に適応する経験をする治療機器》をコンセプトにSPIDERは開発されました。



SPIDERは、身体から外に向かって張られたゴム紐が蜘蛛の巣のように見えるところからついた名前です。その構造は身体に装着する留め具付きベルトと弾力性の異なるゴム紐、それを固定するための支柱または枠から成り立っています。SPIDERを用いることで、身体の弱い部分をサポートしながら筋肉や関節内にある固有受容器(筋肉の収縮の度合いや関節の位置を知らせる)やバランス能力に必要な前庭系・視覚系(平衡感覚などを司る)からの情報を容易に統合することができます。これにより空間における身体の位置を知ることが可能になります。また、動き方を試行錯誤することで運動の多様性や、より効率的な運動を選択



していく過程を自己学習できま  
す。  
当センターでも導入後、多くの方が利用されています。SPIDERを使用することで、初めてジャンプができた方、立位で音楽に合わせて踊る方、座位でボールの揺れを楽しむ方など、様々な活動の広がりを見せています。そして、多くの笑顔がそこにはあります。是非みなさんリハビリ室を覗いてみてください♪  
理学療法士 川上敏美

## 福岡特別支援学校訪問教育

### 「修学旅行に行きました」

10月19日、良い天気恵まれて、修学旅行で九州国立博物館に行くことができました。当初は、5日にめぐみ棟、19日にひかり棟の2回に分かれて、プログラムも別々に行く予定でしたが、まさかの台風で、5日のめぐみ棟は中止になりました。しかし、皆さんの御協力に支えられて、19日に全員で行くことができました。久山療育園をはじめ、ウエルバスほか皆様に紙面を借りてお礼を申し上げます。

りしていた人、大きな飾山笠にびっくりした人、展示場で大きな錨やタペストリーに見とれていた人、ベトナムの市場にいる人たち(写真)とびったりなじんだ人、買い物をした人など、色々な時間の過ごし方を楽しみました。とにかくとても楽しい1日でした。これも御協力くださった皆様のおかげと感謝しています。みなさんから心をこめて「ありがとう」ございました。」

福岡県立福岡特別支援学校 訪問教育職員一同

参加者は、めぐみ棟は草場さん、荻本さん、高木さん、ひかり棟は桃野さん、高尾さんをはじめ保護者の皆様と療育園からのサポートに加え特別支援学校の職員と総勢18名で出かけました。  
まずは、レストラン・グリーンハウスで、豪華な昼食。みんなとても美味しくいただきました。ジュースを一気に飲み干した人、デザートはおじいちゃんに譲った人、全部みごとに平らげた人など、みんなが食事を楽しみました。  
次は見学で、虹のトンネルの中で、天井の色の変化にびっく



# 通所の活動

今年もやってきましたハロウィン。年々とハロウィンも盛大になっていき通所前の廊下もハロウィンロードのように、とても賑やかになりました。宇宙ではハロウィンに向けて、みんなで配るお菓子をトリアス久山にお買い物へ行き、お母さんと一緒に選んでもらいました。ハロウィン当日は、子どもたち、お母さん、スタッフもハロウィンの仮装する機会もな、この日はカツラを被ってみたり、メガネをかけてみたり：いろいろな物を身に付け、その場は笑いが絶えませんでした。中にはスタッフの仮装が怖くて泣いてしまう子どももいました。(反省宇宙の子どもたちが「ハッピーハロウィン」とお菓子を配り出すと「かわいい〜」といつの間にか囲まれてしまい、写真をパチリッ、お菓子を手渡すとみんな笑顔になってくれました。今年もチビッコハロウィン隊、「大成功」お菓子と一緒に笑顔もプレゼントできてよかったです。

通所 保育士 汐田美賀

Let's GO  
ハロウィン



「もらってくれないとイタズラしちゃうぞ〜！」



「ハッピー ハロウィーン♪〜」

十月十二日に筑前町の「みなみの里」まで通所の利用者様八名とお母様方で行ってきました。十月というのに暑くて汗ばむ程でした。みなみの里までの道のりは少し長かったですが、車内はお母様方の会話が弾み、徐々に懐かしい風景に変わり、しばらく行くと到着。現地集合の利用者様と合流し、まずレストランへ。地元で生産された旬の作物を使った惣菜が沢山あり、利用者様とお母様方は美味しそうにお腹いっぱい食べていました。食事の後は散策をして、直売所内を見たり、秋桜はまだ早くてあまり咲いていなかったの残念でした。鯉にエサをあげたり、山羊と触れ合ったりして、ゆっ

園外活動へ行ってきました！



「お外はとっても心地いい〜！」

くりと楽しい時間を過ごす事が出来ました。お母様方から「楽しかった。」と言っていたときは、本当に良かったと思えました。来年はどこに行くのか楽しみです。

通所看護師 大谷 美保

「動物園に行ってきました!」

10月15日、北九州市にある到津の森動物園に利用者10名に保護者、ボランティアなど総勢30名ほどで行ってきました。お弁当を持つての遠出は初めてです。当日は天気や体調不良にならないか心配しましたが、天候は晴れ!みんな元気!何日も前から楽しみにしていたので朝からみんなとても良い表情をしています。

動物園では、ライオンやゾウなどたくさん動物がいて、ゾウとサルとヤギには餌やり体験もしてきました。中でもヤギは手で直接野菜を食べさせるのですぐそこにヤギがいて、口に手が触れたり、突然ヤギが顔を近づけて来るのでビツクリして固まってしまふ方もいましたが、餌やりが楽しくて「ほら、食べて」と何度も食べさせている方もいました。また、園内の広場にはウサギや亀になれるスポットがあり、ウサギの顔の穴に自分の顔を入れて写真を撮ったり、亀の甲羅にスタンプが入り、背中に乗って「はい、チーズ!」など笑い声があふれていました。

今回はたくさんボランティアさんが来てくださったので、一人ひとりにボランティアさんが付き、保護者の方もお子様や保護者同士で楽しくお話をしながら一緒に動物園内を回ることができ、「こんな機会でもないところやってゆつくり動物園に来ることはないです」と喜

びの音が聞かれていました。天候にも恵まれ、事故や怪我もなく無事に一日を終えることが出来たのも、保護者の皆様とボランティアの皆様ののおかげだと心から感謝しております。まだまだ楽しい行事をたくさん計画しています。保護者の皆様やボランティアさんのお力を借りながら、グループホームでの思い出をたくさん作っていきたいと思っております。

重症者ホームひさやま

介護福祉士 大里弘美



追悼 有吉 寿恵子さん

寿恵子さんは、28歳の時(昭和51年)に久山療育園へ来られました。抱っこやおんぶなどのスキンシップをとっても好まれていました。寿恵子さんの近くで待っていると、背中に抱きついて「くすつ」と笑われます。そして、大きく揺さぶると「わっはは」ともつと大きな笑い声を出しながら笑顔があふれ出し、とても嬉しそうなお表情をされます。

今年、8月に行なわれた地域の盆踊りに参加されました。最初は、大きな音にびつくりされたようで表情がすぐれませんでした。事前に考えていたオリジナルの盆踊りをスタンプと一緒に踊り出すと楽しそうな表情がみられました。しばらく盆踊りの輪の中で、笑顔がたくさんみられ、寿恵子さんにとっても楽しい思い出になったのではないかと思います。

そんな素敵な寿恵子さんですが、今年10月19日に旅立たれました。その日は、毎月恒例の散髪をして、かわいい髪型になられていましたね。遠い所に行かれましたが、いつまでも私たちの心の中には、笑顔の寿恵子さんがいます。多くの思い出をありがとうございました。

(光棟 寺嶋奈美・花田京子)

追悼 大木 望さん

望さんは1歳の時(平成4年)の久山療育園に入所されました。お父さん、お母さんをはじめ、めぐみ棟の職員、学校の先生達の見守りの中、沢山可愛がられ愛されて過ごしてきましたね。

成人式では、成人式の4年前からきれいな髪を伸ばし準備をし、職員さんに綺麗にメイクとネイルをしてもらいみんなに見守られ、とても素敵な成人式を迎える事が出来ましたね。みんなを魅了する素敵な女性へと成長していく姿にみんなうれしく思っていたと思います。

今年の春は園庭の桜を見に散歩に行きました。その日は入眠する事もなく、大きな目を開けて心地よい風を感じたり、桜の花びらを見たり、2人だけの内緒話をしたりと楽しい時間を過ごす事ができ、望さんとても穏やかな表情で笑っていた事を今でもはっきりと覚えております。他にも沢山のエピソードがありますが、私と望さんとの大切な思い出です。

望さんありがとうございました。望さんとお会えたことに心から感謝しています。

(めぐみ棟保育士 田崎加奈子)

### 新しいお医者さんが 来られました

この秋から、お二人の医師が入職されましたので、ご紹介致します。

- ①名前 ②趣味 ③久山療育園の印象
- ④これからの抱負



①野田 正紀(小児科部長)

②写真撮影・風景、動物。

ニコンデジタル一眼レフとフィルム一眼レフ(ニコンF6)の両方を使用しているが「二兎を追う者は一兎をも得ず」で失敗ばかりしています。

大工道具・電気ドリル、電動鋸、金物を集めています。家内から仕事の依頼がありません。

③1970年(昭和45年)、小児科医として駆け出しの頃、大病院の外での当直で島田療育園に通った経験があり、都立の虚弱児施設に3ヶ月間住み込んだことがあります。46年前の昔の話です。この度、26年の開業医生活を終え、久山療育園に嘱託として勤務するにあたり不安が一杯でしたが、宮崎園長の実に細やかな心配りにより段々に慣れてきています。職員の皆さんが親しみを携って笑顔で接して下さるので、初出勤日からホッとしました。入所者、通園の人達との非言語コミュニケーションに精緻を極

めているからこそ施設内の雰囲気が出るのだと思います。

④外来での小児科検診は乳幼児の場合には保護者(ほとんどがお母さん)から様子を聞いてこどもの顔をチラッと見て大体の判断が付きまします。(チョット見診断、英語では「at a glance pediatrics」)そこに内面の色々な問題、心の葛藤を抱えている大人の診断と異なるところです。私は入所児者の笑顔を引き出そうと試み、声かけとボディタッチをくり返しています。いい笑顔を写真に撮りたいと思っています。



①橋本 治光(内科部長)

②趣味 旅行・ダイエット

③久山療育園の印象

社会福祉法人バプテテスト心身障害児(者)を守る会に就職させていただきありがとうございます。長らく、公務員をしていたため、久しぶりの会社員です。いままでは都会(札幌)まで高速バスで3時間かかる地域に生活していましたが、博多まで1時間の都会で生活でき、とても幸せです。時間を気にしないで、生活ができます。

④これからの抱負

はやく、こどもの医療になれるように頑張りたいと思います。できれば、健康のため生活習慣の改善をしたいです。

### 開園祭勤続表彰職員の声

#### 20年表彰を受けて

永年勤続二十年表彰をしていただきありがとうございます。

二十年前就職してから、「ひかり棟・めぐみ棟・通園」そして昨年開所した「グループホームひさやま」で働かせて頂きました。それぞれ場所の特色により、働いていて楽しい面・大変な面などは違ってきましたが、どの場所でも利用者様との日々を楽しく過ごそうと思うことが仕事の意欲につながりこれまで働くことができたと思っています。現在はグループホームに勤務していますが、ホーム開所当初は手探りの中、在宅に近い生活を提供するにはどうすれば良いのか?利用者様が満足できる生活を送るにはどうしたら良いのか?などをスタッフ同士でしっかり話し合い、ホームの特色を生かした生活を提供できる様になり、利用者様はもちろんスタッフも楽しく過ごしています。

(グループホーム 島津静香)

#### 10年表彰を受けて

10年20年を迎える人を見て、「すごいなあ」と思っていました。自分が

10年目を迎えてみると、長くて短かった様に感じます。

今まで、沢山の人達に出会い、色々な事を学びました。まだまだ、出来ない事、頑張らないといけない事が沢山あって自分に自信がありません。不安になる事もたくさんあります。そんな時、上司や同僚に声を掛けられたり、励まされたりしてここまでやって来られたと感謝しています。いつまでやれるか分からないけれど、自分で「本当に良くやった」と心から褒める事が出来るように頑張っていきたいと思っています。

(めぐみ棟看護師 永沼清美)

#### 5年永年勤続表彰を受けて

今回、勤続5年の表彰を受けることができました。

今はまだ、入職した日の事をまだ昨日の事のように思い出すことができます。

しかしよく考えると、どんな日も入所者のみなさんやスタッフの皆さんの笑顔とやさしさに支えられ続けている5年間だったと、あらためて思っています。

力及ばずの私ですが、これからのがんばりたいと思います。どうもありがとうございます。

(めぐみ棟看護師 笹倉典子)

### 第40回開園祭表彰者

#### 特別表彰

久山町 久原財産区管理組合

ボランティア表彰者

- 5000時間 戸島 梶子 様
- 2000時間 林 香代美 様
- 2000時間 梅崎 季美子様
- 2000時間 牧角 雅子 様
- 500時間 中富 美穂子様

職員永年勤続表彰者(敬称略)

- |     |        |        |
|-----|--------|--------|
| 30年 | 中雄 隆司  | 島津 静香  |
| 20年 | 古賀 公俊  | 山田 建   |
| 15年 | 高木 美鈴  | 原田 太一  |
|     | 横山 友美  | 永沼 清美  |
| 10年 | 山口 真一  | 川上 敏美  |
| 5年  | 笹倉 典子  | 浦見 哲詞  |
|     | 廣末 美穂  | 新木 ひとみ |
|     | 田代 未来  | 鳥飼 未知瑠 |
|     | 寺田 直人  | 佐藤 有美  |
|     | 安河内 育子 |        |

重症心身障害児施設の勤務は初めてで最初は不安ばかりでしたが多くの人に支えられ今日、勤続5年の表彰を受ける事が出来ました。

5年は長い様でアツという間に過ぎた感じで色々な事が昨日の事のように思い出されます。

まだまだ経験出来ていない事も多く不安もありますが感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思えます。

(めぐみ棟 看護師 浦見哲詞)

これからも、頑張っていきたいので、よろしく願います。

(めぐみ棟 看護師 廣末美穂)

本年度を持ちまして勤続5年の表彰を迎えることができました。また、久山療育園40周年という節目に携わる事が出来、とても光栄です。

「神は愛」という言葉のように、40周年の長い月日を支えることが出来たのも職員の皆様、地域の皆様、そして何より家族の愛情があつてこそその久山療育園40周年の礎となる事が出来たと思えます。これからも一生懸命努めていきたいと思えますのでよろしく願います。

(めぐみ棟介護福祉士 田代未来)

## 今年もありがとうございました!



十月十八日、20名の九電工職員さんが来園し、ボランティアとして清掃活動を行っていただきました。

九電工グループでは、毎年十月下旬に「さわやかコミュニティ旬間」と題し、グループ全社全体で地域社会に根ざした奉仕活動を実施されているそうです。

日頃の高所作業でのノウハウを活かした清掃作業や、福祉施設の設定点検作業など、地域貢献活動を各支社等の所在地ごとに実施されています。グループ



では今年で四十八年目となる取り組みとなっているそうです。

この日は、園の窓ふきやグラウンドの落葉拾い、高所作業車を使用しての外灯清掃など、日頃できない場所の清掃を隅々まで行っていたいただきました。

本当にありがとうございました。

(総務課 古城佳彦)



# ボランティアだより

## ボランティア紹介 田口和子さん



田口和子さん

今回は木曜日に来て下さっている田口和子さんをご紹介します。

田口さんは約1年半前からボランティアに来て下さっており、毎月第2、第4木曜日に2階エレベーター前でコーヒー販売をしていただいています。

田口さんがボランティアを始めるきっかけになったのは、今一緒にコーヒー販売をして下さっているボランティアの川野さんの存在でした。川野さんとは約10年前に陶芸教室で知り合われ、そこで久山療育園のことやボランティア活動の話聞き、10年以上も久山療育園でボランティアを続けている川野さんに感激し自分も何か役に立つことがあればと思いいボランティアに来られるようになりました。もともと弟さんが障がいをお持ちとのこと、障がいのある方との関わりに抵抗

などはなくボランティアを始めた当初から利用者の方々の関わりはとても楽しかったと話されます。

田口さんがボランティアとして活動してくださっているコーヒー販売では、利用者さんだけではなく保護者の方々や休憩中の職員などたくさんの方とも関わりがあります。田口さんはコーヒーを買いに来られる方々との関わりがとても大切で、笑顔をもらうたびに元気が出ると話されます。特に職員に対しては今まで弟さんや体調の悪いお母様の関係で色んな病院や施設の職員をみてきたけど久山療育園の職員の方々は挨拶から違うとのこと、嫌だと感じる人は1人もいないし言葉では表現できないくらい素敵な職員ばかりだと、インタビュをさせてもらった私も照れてしまうほどのお褒めの言葉を頂きました。

ボランティア活動を始めて1年半ほど経ち、ようやく慣れてきたのでそろそろ活動をコーヒー販売以外に広げていきたい、まずはタオルたたみから始めたいと語ってくださいました田口さん。今後ともどうぞよろしくお願いします。

(相談支援主任 山田)

### 久山療育園 クリスマスのご案内

○入所利用者のクリスマス  
12月13日(火)  
10:30より  
メッセージ 山田 雄次理事長

○久山療育園クリスマス会  
12月15日(木)  
13:30~14:30  
メッセージ 吉田 晃児牧師  
(霊水キリスト教会牧師)  
\*礼拝後、懇親会開催の予定

○通所クリスマス  
12月16日(金)  
10:30~  
メッセージ 山田 雄次理事長



### 歩行器



激動の2016年もまもなく終わろうとしています。

今年も久山療育園 重症児者医療療育センターにとって、40周年記念開園祭と全国支援者会議があり、いままでの「40年の歩み」を総括するとともに、神様の導きと祝福を再認識した年でもありました。

また、社会福祉法改正に伴う経営ガバナンスの確立や制度の見直し、内部統制等変更にも全力を挙げて対応したときでもありました。社会福祉法人を取り巻く社会的・政治的状況は年々厳しいものがあり、昨今の情勢下では「命の価値の大きさ」ではなく、「コスト(お金)の価値の大きさ」によって判断される時代に入りつつあります。物質的な繁栄と引き換えに精神的貧困が増加しているのではないのでしょうか。

こういう時代だからこそ、我々一人ひとりは「キリストの灯」を高く掲げる必要があります。それは「愛の象徴」であり、自身自身を燃やしまわりの人々に「光と温もり」を与えるからです。

南アフリカの元大統領だったマンデラ氏はダボス会議で、「飢え、貧困、病氣、犯罪、不正、憎しみなどを根絶しよう」と闘っている人々こそヒーローである」と述べています。

人は人生の中で次の世代へ何を残すかで評価されます。例えそれが取るに足らないものであっても、神様から見ればそれは大いなるものであるからです。クリスマス喜びと感謝と希望をもって迎えましょう!

(M・U)